日産車体株式会社
株式会社 オートワークス京都

2026 年 11月 12日

使い慣れた配送トラックをバッテリーEVへ架装
グリーンコープで始まる“既存車両を活かす脱炭素”

日産車体株式会社（本社：神奈川県平塚市、社長：冨山　隆）のグループ会社である株式会社オートワークス京都（本社：京都府宇治市、社長：中西弘幸、以下「AWK」）は、ヤマトモビリティ&Mfg.株式会社（本社：埼玉県川越市、代表取締役CEO：鈴木昭寿、以下「ヤマトモビリティ」）と協業し、小型トラックのEV（Electric Vehicle・電気自動車）コンバージョン車の架装を開始しました。
本体制による初号車として、一般社団法人グリーンコープ共同体（本社：福岡県福岡市、代表理事：日高容子、以下「グリーンコープ」）が保有する配送用トラック「日産 アトラス」（F24型）をバッテリーEVへ架装し、本日、グリーンコープ生活協同組合（以下「生協」）みやざき 宮崎支部にて、同車両の引渡式および出発式を実施しました。



使い慣れた配送トラックをバッテリーEVへ架装



グリーンコープ生協みやざき　宮崎支部で行われたバッテリーEVトラック　初号車の出発式

AWKは、ヤマトモビリティと連携し、EVコンバージョン事業を通じて、物流・流通業界で使用されている車両のEV化を推進し、環境負荷の低減と脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

グリーンコープは、安心・安全な商品の供給事業、環境、子育て支援等の活動に取り組み、2027年までに事業で排出する温室効果ガスをゼロにする目標を掲げ、営業・配送に使用する約1,300台の車両のEV化を進めています。2026年12月までに全車両の7割以上をEVに切り替える計画です。

今回導入する車両は、EVトラックの新車購入ではなく、グリーンコープで現在使用している小型トラックのエンジンなどの駆動システムを電動化し、継続使用するアプローチを採用しています。

AWKは、日産 アトラスの量産で培った製造経験と豊富なコンバージョンの知見を生かし、高品質な車両の組立に取り組み、今後もヤマトモビリティとともに、グリーンコープが目指す2027年のカーボンニュートラルの実現をサポートしてまいります。

〈バッテリーEV 架装前車両情報〉

ベース車両	:日産 アトラス（F24型）
対象型式	:ガソリン車　CBF-SQ2F24 （普通免許対応仕様）

〈バッテリーEV架装後車両情報〉

バッテリー容量	:41.86kWh
航続可能距離（目安）	:約100km
普通充電	:SAE J1772（type1）／約8時間（6kW充電器）
急速充電	:CHAdeMO ／ 約30分で80％（50kW充電器）
車両総重量	:3.5t未満
最大積載量	:1.3t（標準仕様）

〈各社の役割〉

グリーンコープ	:EVへの転換によるカーボンニュートラル推進
ヤマトモビリティ	:バッテリーEVの開発・販売
AWK	:バッテリーEVへのコンバージョン

〈商用車の電動化促進事業（トラック）補助金について〉

環境省・経済産業省・国土交通省の「商用車の電動化促進事業」は、2026年度も継続されています。小型トラックのEVコンバージョンも引き続き補助対象となり、原則としてEV改造費（部品代・工費）の3分の2が補助されます。補助金の活用により、既存トラックの電動化に伴う費用負担の軽減が期待されます。

〈今後の展開〉

日本市場には、10年以上使用されている小型トラックが数十万台存在しています。AWKはヤマトモビリティと連携し、EVコンバージョン事業を通じて、こうした車両を保有する企業に、既存の車両資産を活用した電動化という新たな選択肢を提供してまいります。今後は、食品・小売・物流分野への展開をさらに進め、企業の脱炭素化に向けた取り組みを支援してまいります。

以上